

書評

[評者]
松谷有希雄
国立保健医療科学院院長



臨床研究マイスターへの道 **医科統計学が身につくテキスト** (Medical Statistics at a Glance, 3rd ed) 杉森裕樹 訳

定価：本体 3,600 円＋税
● A4・180 頁 2014 年
[ISBN 978-4-89592-791-8] MEDSi 刊

近年、医学および関連諸科学の研究は目覚ましく進み、その範囲も拡大しつつある。この 4 月からは、医薬品創出などの研究を集約する独立行政法人日本医療研究開発機構が発足するが、特に医薬品、医療機器の開発を含む臨床研究は、時代の要請も受けつつ急速に発展している。

医学の研究では、生命現象を扱う科学として、統計学が必須の手法として用いられる。歴史的には、まず疫学、そして基礎医学諸分野で用いられ、今や、臨床医学、殊に臨床研究の分野で不可欠な方法として位置づけられ、その重要性は飛躍的に増している状況にある。

本書は、英国の Aviva Petrie および Caroline Sabin による“Medical Statistics at a Glance”第 3 版(2009 年)の邦訳である。類書の多い医科統計学のなかで、教科書的な理論解説でなく、実践的な内容となっている点が、特徴的である。

同じ著者による姉妹書の“Medical Statistics at a Glance Workbook”第 1 版(2013 年)は、すでに津崎晃一氏の訳により『臨床研究マイスターへの道 医科統計学が身につくドリル』(2014 年 1 月)としてメディカル・サイエンス・インターナショナルから出版されている。この、演習問題からアプローチして医学統計学を実践的に学ぶユニークな本は、医学研究者、学生等に好評をもって受け入れられたが、本書は、その親本で、

ドリルを手にした読者から出版が待たれていたものである。

その内容は、医科統計学の基本的な概念、用いられる統計手法、研究デザインと解釈などを 46 章に分け、メタアナリシス、生存分析、ペイズ法、予後スコアの開発などについても章を割り、46 章全体として、医科統計学が俯瞰できるよう工夫されている。1 章は、見開き 2～4 ページとして一目で理解できるよう構成され、章ごとに姉妹書のドリルの該当問題が示されている。また、統計手法の説明には、実際のデータを例として説明に用いており、代表的な統計ソフトの出力例が掲載されているなど、実践的な配慮がなされている。

訳者の杉森裕樹氏は、臨床疫学を踏まえた疫学の専門家で、医科統計学を駆使する仕事をする傍ら、ロンドンのコレラ流行を封じ込めた疫学の先駆者、ジョン・スノウの働きを描いたノンフィクション、『医学探偵ジョン・スノウ』の翻訳もされている。また、医薬品などの承認審査等を行っている独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)の専門委員でもあり、具体的な臨床研究の応用の現場を知っている人が、翻訳の任に当たったことは本書の価値をより高いものとしている。

ドリルとともに、臨床研究を続ける者ならば手元に備えておきたい一冊である。疑問が生じるたびに頼もしいコンサルタントとなるに違いない。